

近江国信楽代官所旧蔵古文書(1)

國學院大図書館所蔵古文書目録(二)

解説

大谷貞夫
千田豊子 編

信楽代官所旧蔵文書は、東京都区内の某古書店から購入したもので、十五点のみである。しかし、^(註1)いづれも御勘定帳であつて貴重なものばかりである。御勘定帳は代官所の決算帳簿であり、地方勘定帳と御金蔵勘定帳に区分できる。十五点のうち2・3・6・9・11・12・13号文書が地方勘定帳であり、更に2・6号が本来の支配地の分で、残りの3・9・11・12・13号が預所・当分上知当分預所の分である。御金蔵勘定帳は1・4・5・7・8・10・14・15号の八点である。これら十五点はいずれも信楽代官の多羅尾氏が幕府勘定所に提出した書類であつて、勘定所の組頭・勘定吟味役・勘定奉行が奥書し、連署捺印の上、返却したものである。本来の支配地にかかわる地方勘定帳の2・6号のみ文末に老中の連署捺印がある。

多羅尾氏は『寛政重修諸家譜』^(註2)によると、藤原氏支流で家紋は牡丹・藤巴であつて、略系図を示すと、別図の通りである。

①光吉は永禄十一年二月に九一歳で死亡した。②光俊は織田信長に仕え、近江国甲賀郡信楽の小川に住した。天正十年六月の本能寺の変の時、徳川家康は近江路から伊賀路に入り伊勢国白子の浜へと進み帰国した。この時②光俊は一族とともに甲賀の士を率いて家康を警衛し、三男光雅・五男山口光広らに従者五〇人・甲賀の士一五〇人余を副え伊賀路を郷導し白子の浜まで供奉させた。その後②光俊は豊臣秀吉に仕えたが、秀次亡きあと改易され、信楽に蟄居中の慶長十四年二月に九六歳で死んだ。③光太は慶長元年に召され、徳川家康に仕え、月奉二〇〇口を与えられた。のち弟光雅(高三八〇〇石)の采地を割いて、近江国甲

左京進・和泉守 ①光 吉 ②光 俊 ③光 太 ④光 好 ⑤光 忠
 (一永禄十一) (一慶長十四) (一寛永六) (一延宝二) (一享保十)

四郎五郎・次左衛門 ⑥光 頭 ⑦光 豊 ⑧光 雄 ⑨光 崇
 (一享保十七) (一明和七) (一寛政十) (寛政十)

賀郡内で一五〇〇石の地を賜った。関ヶ原の合戦にも供奉し、のち代官となり、大坂兩陣にも参戦し、寛永六年に致仕した。④光好は③光太の家を継ぎ代官となったが、寛文七年十一月に私曲のことがあって職を奪われ、同九年二月に七〇歳で死んだ。⑤光忠は小堀遠江守政一の六男で、養父④光好の縁座で閉門せしめられ、寛文九年二月にゆるされ、延宝二年十二月に至り遺跡を継ぐことが認められ小普請となった。宝永三年二月に代官となり、享保十年四月に八二歳で死亡した。⑥光頭は享保十年九月に遺跡を継ぎ、同年十二月に代官となり、享保十七年十二月に五九歳で死没した。1・2号の御勘定帳は⑥光頭の代のものである。⑦光豊は享保十八年六月に遺跡を継ぎ代官となり、明和七年九月に致仕した。3・7号の御勘定帳は⑦光豊の代のものである。⑧光雄は明和六年十二月に父の職の見習を命じられ、家督を継ぐと同時に代官となった。安永三年十二月に至り租税の未進があるとして職を奪われ、采地の内一二〇〇石をしてその償いに当てるように命じられたが、天明元年七月に旧家であることを理由に再び代官となり、寛政十年三月に致仕した。8・9号の御勘定帳は、⑧光雄の代のものである。⑨光崇は寛政五年三月に代官見習となり、⑧光雄の致仕と同時に家を継ぎ代官となった。⑨光崇は嘉寿雄・四郎次郎を通称とし、文化十一年七月に致仕した。10号の御勘定帳は⑨光崇の代のものである。⑨光崇の致仕と同時に⑩鞠負某が家を継ぎ、文化十三年七月に十一代將軍徳川家斉をはじめて謁見し、天保八年六月に至り病氣を理由に致仕し、代官見習であった⑪織之助某が代官となった。11・15号の御勘定帳は⑩鞠負某の代のものである。

『柳営補任 五』によると、代官多羅尾織部が天保九年に死亡し、天保九年に代官見習の多羅尾純門（通称織之助・久右衛門・民部）が代官となり、嘉永六年十二月二十八日布衣となったとみえる。⑩ 鞠負某が織部と改称し天保九年に死亡したものである。⑪ 織之助某は前年の六月に代官に就任していたわけである。

『江戸幕府代官史料——県令集覧』によると、嘉永七年には代官多羅尾久右衛門（一五〇〇石）、安政五年には代官多羅尾民部（一五〇〇石）・父民部御用手伝久五郎、安政七年も同、文久元年には代官多羅尾民部（一五〇〇石）、文久三年には天保八年六月ヨリ代官多羅尾民部（一五〇〇石）、慶応二年には天保八年六月ヨリ代官多羅尾民部（一五〇〇石）とみえている。『柳営補任 五』にも、多羅尾純門の死亡年次は記入されていないのであって、「県令集覧」の記事と一致しているのである。

『旧高旧領取調帳——近畿編——』によると、多羅尾織之助の知行地は、次の通りである。

近江国甲賀郡多羅尾村	高七八五石三四〇	一給
同 中野村	高二〇〇石〇四〇	同
同 畑村	高八二石一四〇	同
同 杉山村	高二五三石二三七	同
同 長野村	高一三八石一八八	二給
同 柞原下野村 ^{ほそはら}	高四一石〇六三	三給
合計	高一五〇〇石八合	

となる。今日の行政地名では、滋賀県甲賀郡信楽町内の大字にあたる。

一方、信楽代官所の文政四年四月の「文政二卯年御勘定目録」一冊が国文学資料館史料館に伝存して^(註6)いて、大野瑞男氏が前掲「幕府勘定所勝手方記録の体系（その一）」で全文を紹介している。

なお、本古文書は平成七・八年度「日本史演習Ⅱ・Ⅲ」（大谷）に利用した。筆写に当った学生の氏名を文末に記入してある。

（註1）大野瑞男氏『江戸幕府財政史料の研究』吉川弘文館（平成八年）二〇頁以下、同氏「幕府勘定所勝手方記録の体系——幕府財政

史料の類型論序説（その一・二・三）『史料館研究紀要』五七号（昭和四十七・四十九年）。

（註2）『新訂 寛政譜 第十五』一二三頁以下。

目
録

分類番号	年月日	史料名	形態	差出人・作成人	受取人
1	享保十・十	享保九辰年御金蔵 ⁵ 請取候金銀御勘定帳	縦帳	多羅尾 治左衛門	勘定所
2	享保十一・八	享保十巳年御勘定目録	縦帳	多羅尾 治左衛門	勘定所
3	享保十八・四	御預 ^リ 所 享保十七子年御勘定目録	縦帳	多羅尾 求馬	勘定所
4	元文 元・十一	元御預所 享保二十卯年御金蔵 ⁵ 請取候金銀御勘定目録	縦帳	多羅尾 四郎右衛門	勘定所
5	寛延 二・二	延享四卯年御金蔵 ⁵ 請取候金銀御勘定目録	縦帳	多羅尾 四郎右衛門	勘定所
6	宝暦 五・十二	宝暦四戌年御勘定目録	縦帳	多羅尾 四郎右衛門	勘定所

- (註3) 『続徳川実紀 第一篇』七三一頁。
 (註4) 同前、七七二頁。
 (註5) 『続徳川実紀 第二篇』三三二頁。
 (註6) 『史料館収蔵史料総覧』名著出版(平成八年)二〇三頁以下。(大谷貞夫)

113 近江国信楽代官所旧蔵古文書(1)

分類番号	年月日	史料名	形態	差出人・作成人	受取人
7	宝暦九・十二	宝暦八寅年御金蔵 ⁵ 請取候金銀御勘定目録	豎帳	多羅尾 四郎右衛門	勘定所
8	天明四・二	天明二寅年御金蔵御勘定目録	豎帳	多羅尾 四郎右衛門	勘定所
9	天明六・七	当分上知当分御預所 天明四辰年御勘定目録	豎帳	多羅尾 四郎右衛門	勘定所
10	文化二・四	享和三亥年御金蔵御勘定目録	豎帳	多羅尾 四郎次郎	勘定所
11	文化十五・五	当分上知当分御預所 文化十三子年御勘定目録	豎帳	多羅尾 鞞 負	勘定所
12	文政三・四	当分上知当分御預所 文政元寅年御勘定目録	豎帳	多羅尾 鞞 負	勘定所
13	文政四・四	当分上知当分御預所 文政二卯年御勘定目録	豎帳	多羅尾 鞞 負	勘定所
14	文政十・七	文政四巳年御金蔵御勘定目録	豎帳	多羅尾 鞞 負	勘定所
15	天保四・五	天保元寅年御金蔵御勘定目録	豎帳	多羅尾 鞞 負	勘定所

〔一〕享保十年十月 享保九辰年御金藏₅請取候金銀御勘定帳
(豎帳)

(表紙)

享保九

辰年御金藏₅請取候金銀御勘定帳

多羅尾 治左衛門

享保九

辰年御金藏₅請取候金銀御勘定目錄

一 金八百七拾八兩貳分永貳拾六文九分三厘
銀壹貫五百拾五匁三分三厘

江戸御金藏₅請取

此渡方

金六百三拾七兩貳分永百三拾壹文五分八厘

志州鳥羽城御詰米代

是者、志州鳥羽城御詰米九百六拾九石貳斗御買上代、但金壹兩
ニ壹石五斗貳升替之積_リ相渡如此

金百八拾兩壹分銀六匁七分五厘

御茶料御入用

是者、勢州川俣谷御煎茶料并御茶諸色入用、紀州殿役人江相渡請

取手形有之

金六兩永貳百拾七文四分四厘

御茶御用ニ付、勢州松坂江
罷越候御扶持方并諸御入用

是者、右御用ニ付辰六月十一日₅松坂江罷越、同十九日罷歸候

日数九日分、亡父四郎右衛門并手代御扶持方米貳石三斗六升貳

合五夕、此代金貳兩永九拾文七分、壹兩貳分永八拾壹文四分八、

信樂₅松坂迄往返道法三拾四里人足八人分之賃錢、壹分永百四

拾五文三分四厘ハ手代貳人右同断、往返道法本馬壹足分駄賃貳

兩永百五拾文ハ松坂旅籠代相渡如此

金三兩三分銀壹貫二百四拾七匁

土橋御修復料并堤
川除御普請御入用

是者、勢州石薬師宿往還土橋御修復并勢州・江州・和州堤川除・

以樋・寛御普請御入用如此

銀三拾四匁壹分八厘

手代木錢・駄賃

是者、江州水口城・志州鳥羽城御詰米御用ニ付、手代貳人差出

候木錢・駄賃

金五拾兩貳分永百七拾七文九分壹厘

運賃

是者、勢州辰年廻米九百八拾石八斗六升貳合七夕之運賃、金五

拾兩貳分永百七拾七文九分壹厘、但百石ニ付金五兩永百六拾六

文六分六厘七毛宛

銀百貳拾七匁四分

江州五里外駄賃

是者、江州御年貢米之内納大豆貳石四斗五升六合、蟹ヶ坂村₅

矢橋赤野并浦迄道法五里半、駄賃錢四百四拾八文貳分、但壹里壹

石ニ付三拾貳文宛、大豆七石七斗六升三合、中村₅右同浦迄道法

六里之駄賃錢壹貫五百五拾文五分、但賃錢右同断、大豆拾壹石

七斗九升八合寺庄村右同浦迄、道法三里半之駄賃錢壹貫
三百七拾三文四分、大豆貳拾八石貳斗壹升鮎川村右同浦
迄、道法七里之駄賃錢六貫五百七拾九文、但賃錢右同断、
大豆貳石三斗六合名坂村右同浦迄、道法三里之駄賃錢貳
百貳拾九文四分、但賃錢右同断、駄賃錢合拾貫百八拾八文
五分、但壹貫文ニ付拾貳匁五分替

右諸渡方金銀御金藏方請取可相渡旨、駒木根肥後守・寛播磨
守・久松大和守・稻生下野守・萩原源左衛門・杉岡弥太郎・
辻六郎左衛門・神谷武右衛門・細田弥三郎・石原半右衛門・
木村四郎兵衛・吉田左兵衛・小林孫四郎証文有之

渡合
金八百七拾八兩貳分永貳拾六文九分三厘
銀壹貫五百拾五匁三分三厘

右者、辰年御金藏方請取候金銀渡方手形を以御勘定仕上ケ申候、
以上

享保十年巳十月

御勘定所

多羅尾 治左衛門 印

如前書享保九辰年御金藏方請取候金銀、弘方手形を以同年御勘定
仕上有之付、為後日覚令判形遣之候、以上

巳十一月

鈴木 弥惣右衛門 印
古郡 孫太夫 印
原 新六郎 印
祖父江 作左衛門 印
小林 孫四郎 印

御用ニ付無印形

八木清五郎 印
吉田左兵衛 印
木村四郎兵衛 印
石原半右衛門 印
坂本新左衛門
小出加兵衛 印
稻葉与一右衛門 印
細田弥三郎 印
神谷武右衛門 印
辻六郎左衛門 印
杉岡弥太郎 印
萩原源左衛門 印
稻生下野守 印
久松大和守 印
寛播磨守 印
駒木根肥後守 印

多羅尾 治左衛門 殿

(筆写 相馬孝斉)

(三) 享保十一年八月 享保十巳年御勘定目録 (豎帳)

(表紙)

享保十

巳年御勘定目録

多羅尾 治左衛門

享保十

巳年御勘定目録

一高壹万千八拾七石七斗五升貳合貳勺

大和国

此取米貳千八百五拾石六斗四合 高貳つ五分七厘

内壹石壹斗三升九合 見取之分厘付除之

米五石五斗

銀百五拾貳貫百拾八匁四厘

此取

銀四拾九貫八百八拾五匁貳分九厘

三分一銀納之分

但壹石ニ付五拾貳匁五分替

銀八拾六貫百貳拾七匁三厘

三分二銀納之分

但壹石ニ付五拾三匁五分替

銀拾六貫百五匁七分貳厘

十分一大豆銀納之分

但壹石ニ付五拾六匁五分替

一高六千八百四拾八石五斗三升三勺九才

近江国

此取米貳千四百三拾貳石五斗貳升 高三ツ五分五厘貳毛

内壹斗 見取之分厘付除之

米千七百七拾七石壹斗七合六勺

内大豆貳百八石壹斗七合

銀四拾八貫四百七拾四匁六分四厘

此取

銀三拾七貫七百四匁壹分壹厘

三分一米銀納之分

但壹石ニ付四拾六匁五分替

銀八貫八百八匁三分六厘

三分二米銀納之分

但壹石ニ付四拾四匁貳分三厘替

銀壹貫八百四拾七匁五分貳厘

十分一大豆銀納之分

但壹石ニ付五拾貳匁五分七厘替

諸渡方ニ除置候内

銀百拾四匁六分五厘

殘米之分御払代銀

但壹石ニ付五拾貳匁八分替

伊勢国

一高壹万七拾貳石五斗六合八勺

此取米三千六百三拾七石七斗六升貳合 高三つ六分壹厘貳毛

内四升五合 見取之分厘付除之

米三千貳百壹石壹斗九升八合

内金三百五拾九匁貳分永百九文四厘

117 近江国信楽代官所旧蔵古文書(1)

此訳

金百拾九兩三分永七拾四文貳分

三分一金納之分

但 金壹兩ニ付
壹石貳斗四升替

金七拾八兩壹分永貳百四拾四文五分四厘 三分二金納之分

但 金壹兩ニ付
壹石壹斗貳升九夕替

金百六拾壹兩壹分永四拾文三分

私之分

但 勢州已三分一直段
金壹兩ニ付壹石貳斗四升替

高合貳万八千八石七斗八升九合三夕九才

此取米八千九百貳拾石八斗八升六合 高三つ壹分八厘五毛内

内 壹石貳斗八升四合 見取之分厘付除之

米四千三百八拾三石八斗五合六夕

大豆貳百八石壹斗七合

内 金三百五拾九兩貳分永百九文四厘

銀貳百貫五百九拾貳匁六分八厘

一米八拾六石九斗壹升

小松林年貢 山手米
荒物成 笠 役 米
水主 役 夫 米

小物成

一米百三拾三石壹斗貳升

夫 林年貢
野手米 酒 役
山手米 ひし年貢
水主 役 笠 役
荒物成

小物成

此金百七兩壹分永百四文八分四厘

但 勢州已三分一直段
金壹兩ニ付壹石貳斗四升替

一金貳拾七兩永貳百八文八分三厘

海運上山手
鉄炮役 木ノ口小物成
茶役

一金七兩三分永百貳拾四文六分五厘

麦代小物成

是者、勢州度会郡上条村定納荒麦貳拾八石貳斗七升取立置前々
之格を以御私之積、近在入札申付壹石ニ付金壹分永貳拾八文五
分五厘替落札ニ付、相伺書面之通取立如斯

一米三百四拾七石八斗五升五合九夕

山年貢 小物成
夫 米

此銀拾八貫百七拾三匁三分九厘

此訳

拾七貫四百八拾三匁貳分八厘

和州分 已三分一直段壹石ニ付
但 五拾貳匁五分替

六百九拾匁壹分壹厘

江州分 已三分一直段壹石ニ付
但 四拾六匁五分替

一銀八百三拾壹匁三分六厘五毛

本地挽役 鳥獵運上
山年貢 栢梯役 小物成
山椒役 藪年貢

一銀拾七貫貳百貳拾匁九分六厘

延壳代返納

此訳

拾六貫貳百八匁九分六厘

和州延壳代返納

是者、大和国宇陀郡村々去ル子年不納銀貳拾貫三百匁并丑年延
壳代百九貫三百七拾壹匁五分壹厘、銀合百貳拾九貫六百七拾壹
匁五分壹厘之儀、寅年乙酉年迄八ヶ年賦被仰付巳年分取立如斯

壹貫拾貳匁

江州延壳代返納

是者、江州土山宿并枝郷五瀬村寅御年貢延亮米代銀拾貫百貳拾
匁之儀、去ル寅年延亮相止寅年者、弘ニ相立、卯子年迄拾ケ年賦
被仰付、已年分取立如斯

一銀百三拾九匁四分

寛・伏樋古板御払

是者、大和国・近江国・伊勢国寛・伏樋、午春伏替古木御払代
如斯

一米九拾五石五斗八合六夕

口米銀納

此銀五貫四百九拾匁七分四厘

但 和州已三分一段五拾貳匁五分、
五匁高五拾七匁五分替

是者、大和国去已本途御物成并小物成米共三千百八拾三石六斗
壹升八合八夕之分、壹石ニ付米三升宛取立如斯

一米七拾三石四斗貳升八夕

同断

此銀三貫七百八拾匁七分七厘

但 江州已三分一段四拾六匁五分ニ
五匁高五拾匁五分替

是者、近江国去已本途御物成并小物成米共貳千四百四拾七石三
斗六升壹合壹夕之分、壹石ニ付米三升宛取立如斯

一米百拾五石七斗三升三合八夕

口米金納

此金百三兩壹分永七分八厘

但 勢州已三分一段米三拾五石ニ付
金三兩高、壹兩ニ付壹石壹斗貳升九夕替

是者、伊勢国去已本途御物成并小物成米共三千八百五拾七石七
斗九升貳合九夕之分、壹石ニ付米三升宛取立如斯

一金三分永六拾六文貳分六厘

口金

是者、伊勢国小物成金貳拾七兩永貳百八文八分三厘之分、金壹兩

ニ付永三拾文宛取立如斯

一銀拾貳匁六分壹厘

口銀

此訳

七匁四分七厘

和州分

是者、大和国小物成銀貳百四拾九匁六厘五毛之分、百匁ニ付銀
三匁宛取立如斯

五匁壹分四厘

江州分

是者、近江国小物成銀百七拾匁三分之分、百匁ニ付銀三匁宛
取立如斯

右品々書面之通取立御勘定仕上ケ可申旨、駒木根肥後守・寛播磨
守・久松大和守・稻生下野守・萩原源左衛門・杉岡弥太郎・辻六
郎左衛門・神谷武右衛門・細田弥三郎・井沢弥惣兵衛・小出加兵
衛・石原半右衛門・鈴木弥惣右衛門・木村四郎兵衛・吉田左兵衛・
八木清五郎・小林孫四郎・祖父江作左衛門・原新六郎・古郡孫太
夫証文有之

一金拾七兩永百七拾文五分壹厘

御藏前入用

是者、伊勢国高壹万七拾貳石五斗六合八夕之内、三千貳百四石
三斗壹合者宿々助郷高除之、残高六千八百六拾八石貳斗五合八
夕之分、高百石ニ付金壹分ツ、取立如斯

一銀壹貫七百拾匁四分八厘

右同断

是者、和州・江州高壹万七千九百三拾六石貳斗八升貳合五夕之
内、六千五百貳拾六石四斗七合江州永原村御殿鋪地并五瀬村諸
役御免許・東海道宿々助郷高除之、残高壹万四千四百九石八斗七升

五合五夕之分、高百石ニ付銀拾五匁宛取立如斯

一米貳石四斗壹升五合 御伝馬宿入用

此金壹兩三分永百九拾七文五分八厘

但 勢州已三分一直段金壹兩ニ付
壹石貳斗四升替

是者、勢州高壹万七拾貳石五斗六合八夕之内、六千四拾七石四斗四升米納、殘四千貳拾五石六升六合八夕之分高百石ニ付六升宛之積リ、但三分一直段を以金ニ而取立如斯

一米六石六斗五升貳合 御伝馬宿入用

此銀三百四拾九匁貳分三厘

但 和州已三分一直段壹石ニ付
五拾貳匁五分替

是者、大和国高壹万千八拾七石七斗五升貳合貳夕、高百石ニ付六升宛取立如斯

一米七石六斗八升五合三夕 右同斷

是者、江州・勢州高壹万六千九百貳拾壹石三升七合壹夕九才之内八拾六石九斗九升者、江州永原村・五瀬村諸役御免許前々々御伝馬宿入用不掛、勢州高四千貳拾五石六升六合八夕金ニ而取立、殘高壹万貳千八百八石九斗八升三夕九才高百石ニ付六升宛取立如斯

一米四斗四升五合 六尺給米之内金納

此金壹分永百八文九分 但 勢州已三分一直段金壹兩ニ付
壹石貳斗四升替

是者、勢州高壹万七拾貳石五斗六合八夕之内、九千四百三石九斗貳升壹合者宿々助郷其外夫米相納候村々、前々々六尺給米不掛、高四百四拾六石壹斗九升三合之分者米ニ而取立、殘高貳百貳

拾貳石三斗九升貳合八夕者高百石ニ付貳斗宛之積リ、三分

一直段を以取立如斯

一米壹石五斗三升六合七夕 六尺給米

是者、江州・勢州高壹万六千九百貳拾壹石三升七合壹夕九才之内、勢州高九千四百三石九斗貳升壹合者宿々助郷・夫米相納候村々六尺給米除之、江州高六千五百貳拾六石四斗七合者、永原村御殿敷地并五瀬村諸役御免許・宿々助郷前々々六尺給米除之、勢州高貳百貳拾貳石三斗九升貳合八夕者金ニ而取立、殘高七百六拾八石三斗壹升六合三夕九才高百石ニ付貳斗宛取立如斯

右之寄

米合九千七百九拾貳石壹斗六升九合壹夕之内

四千四百七拾九石九斗三升七合六夕 米納

貳百八石壹斗七合 大豆納

金五百七拾貳兩貳分永貳拾壹文壹分四厘 石代金納

此米六百八拾八石貳斗七升七合八夕

銀貳百拾貳兩四三拾四匁九分七厘 石代銀納

此米四千九拾五石六斗四升五合七夕

銀拾七貫九百五拾三匁貳分四厘 大豆代銀納

此大豆三百貳拾石貳斗壹合

外

金五拾三兩永七拾文貳分五厘 小物成品々金納

銀拾九貫九百拾五匁八分壹厘五毛 小物成品々銀納

金二口合六百貳拾五兩貳分永九拾壹文三分九厘

銀三口合式百四拾八貫三百四匁式厘五毛

右渡方

金六百貳拾五兩貳分

永九拾壹文三分九厘

銀貳百四拾八貫三百四匁式厘五毛

米千六百六拾石貳斗貳升八合八匁

大豆貳百八石壹斗七合

米千貳石九斗八升貳匁

是者、大津御藏詰

米千五百三石九斗

是者、勢州山田奉行御役料并水主同心御切米・御扶持方相渡、
但請取手形有之

山田 治右衛門
戸田 忠兵衛
深津 八左衛門
黒沢 直右衛門

同人

辻 覚左衛門
牛田 甚太郎
竹村 弥次右衛門
青木 郷助
鈴木 新藏
高井 藏人
堀内 源右衛門
石原 太郎兵衛
伴 市郎右衛門
梶川 善兵衛

奈佐 治太夫
近藤 半左衛門
興津 八左衛門
桜井 孫兵衛

山田奉行御役料并水主
同心御切米・御扶持方

山田奉行御役料并水主
同心御切米・御扶持方

米貳石

御林守給米

是者、酒井紀伊守・遠藤下野守・多羅尾久八郎知行所、江州甲賀郡小川村・神山村ニ有之御林三ヶ所御林守給米五人分、壹人ニ米四斗宛相渡請取手形有之
米貳百七拾五石四升三合
御伝馬宿渡

此訳

貳拾八石四斗貳升四合

坂下宿

拾八石壹斗壹升八合

庄野宿

拾八石壹斗壹升八合

石薬師宿

貳拾四石壹斗六升七合

龜山宿

貳拾壹石壹斗三升九合

関宿

三拾壹石四斗五升貳合

土山宿

三拾石三斗

水口宿

三拾壹石四斗七升七合

石部宿

四拾三石五斗四升八合

草津宿

拾貳石七斗五升

守山宿

拾五石五斗五升

武佐宿

是ハ、勢州・江州御伝馬宿并御継飛脚為御扶持方被下之、問屋・年寄米請取手形有之

米五石五斗

伊勢内宮神祝米渡

是者、和州御年貢米之内を以相渡、内宮長官請取手形有之
米拾六石四斗五升
勢州井料米渡

是者、勢州川曲郡井料米同国御年貢米之内を以相渡ス

米三斗壹升五合

二条御蔵詰手代御扶持方

是者、二条御蔵詰御用ニ付、手代老人日数十四日分御扶持方、

一日老人三人扶持五割増之積相渡如斯

米三石六斗三升壹合

御普請奉行扶持并
人足扶持

此訳

和州・江州・勢州

五斗貳升

御普請奉行扶持

是者、和州・江州・勢州川除・寛・伏樋御普請ニ付、壹ヶ国

老人宛手代三人遣候日数五十二日分、但一日老人三人扶持之

積リ相渡如斯

三石壹斗壹升壹合

右同断人足扶持

是者、右同断人足六百貳拾三人分之御扶持方、但一日老人五

合宛之積相渡ス、

米四石三斗五升九合九夕

運賃米渡

是者、江州米・大豆千貳百拾壹石八升七合貳夕二条・大津御蔵

納仕候ニ付、矢橋赤野井浦より大津迄積届候運賃、但米・大豆共壹

石ニ付三合六夕宛、矢橋赤野井浦間屋請取手形有之

米五石五斗貳升九合七夕

車力賃米渡

是者、江州十分一大豆貳百八石壹斗七合二条御蔵納仕候ニ付、

大津より二条御蔵場迄積届候車力賃米、大豆三石五斗積車壹輛ニ

付九升三合宛相渡請取手形有之

右諸渡方御勘定払ニ可相立旨、萩原近江守・戸川日向守・中山出

雲守・石尾阿波守・水野伯耆守・大久保下野守・竹村惣左衛門

・奥野忠兵衛置証文、其外駒木根肥後守・寛播磨守・久松大和守・

稻生下野守・萩原源左衛門・杉岡弥太郎・辻六郎左衛門・神

谷武右衛門・細田弥三郎・井沢弥惣兵衛・稻葉与一右衛門・

小出加兵衛・石原半右衛門・鈴木弥惣右衛門・木村四郎兵衛・

吉田左兵衛・八木清五郎・小林孫四郎・祖父江作左衛門・原

新六郎・古郡孫太夫証文有之

米四千四百七拾九石九斗三升七合六夕

内

千六百六拾石貳斗貳升八合八夕

江戸御蔵納

千貳石九斗八升貳夕

大津御蔵納

合 千八百拾六石七斗貳升八合六夕

諸渡方

大豆貳百八石壹斗七合

二条御蔵納

金六百貳拾五兩貳分永九拾壹文三分九厘

江戸御金蔵納

銀貳百四拾八貫三百四匁貳厘五毛

右同断

右者、私御代官所大和国・近江国・伊勢国、去巳年御物成米・金・

銀納方・渡方御勘定仕上ケ申候、以上、

享保十一年午八月

多羅尾治左衛門印

御勘定所

如前書之金・銀・米・大豆納札并払方手形を以巳年御勘定仕上有
之付、為後日覚令判形遣之候、以上

午十月

八木清五郎印

古郡孫太夫印

原 新六郎印
祖父江 作左衛門印
小林 孫四郎印
吉田 左兵衛印
木村 四郎兵衛印
鈴木 弥惣右衛門印
石原 半右衛門印
坂本 新左衛門印
小出 加兵衛印
稻葉 与一右衛門印
井沢 弥惣兵衛印
細田 弥三郎印
神谷 武右衛門印
辻 六郎左衛門印
杉岡 弥太郎印
萩原 源左衛門印
稻生 下野守印
久松 大和守印
寛 播磨守印
駒木根 肥後守印

多羅尾 治左衛門殿

右之通已年皆濟勘定仕上有之付加奧判者也

伊賀印
左近印
和泉印

(筆写 篠崎建一郎)

〔三〕 享保十八年四月 御預り所享保十七子年御勘定目録 (豎帳)

(表紙)

御預り所

享保十七

子年御勘定目録

多羅尾 求 馬

享保十七子年御勘定目録

一高六千五百三拾八石三斗七升九合

近江国

此取貳千七百貳拾石七斗貳升貳合

高四つ壺分六厘余

一米八拾壺石六斗貳升壺合七勺

口米銀納

此代銀六貫百貳拾壺匁六分三厘

但 江州子三分一直段五匁高
壺石ニ付七拾五匁

是ハ、近江国去子本途御物成貳千七百貳拾石七斗貳升貳合之分、

壺石ニ付米三升宛三分一直段を以銀ニ而取立如斯

右品々書面之通取立御勘定ニ組仕上ケ可申旨、杉岡佐渡守・細

田丹波守・松平隼人正・神谷武右衛門・板花友之進・古郡孫大

夫証文有之

右之寄

米合貳千八百貳石三斗四升三合七勺之内

貳千七百貳拾石七斗貳升貳合

米納

銀六貫百貳拾壺匁六分三厘

石代銀納

此米八拾壺石六斗貳升壺合七勺

右渡方

銀六貫百貳拾壺匁六分三厘

戸田 忠兵衛
黒沢 直右衛門
関口 九郎兵衛
伴 藤五郎

米貳千三百三拾五石四斗三升九合六勺
奈佐 清大夫
阿部 野源五郎

是ハ二條御藏納

阿部 三郎右衛門

米六拾貳石三斗八升

助郷役高御用捨米

是ハ、本多伊予守旧領江州甲賀郡村々石部宿助郷相勤候役高、

三千百拾九石之分高貳分通用捨米年々定渡米請取来候由、右

村々願出候ニ付吟味仕相伺依御下知相渡、村々庄屋・年寄米請取

手形有之

米貳石五斗六升七合

神田寺屋敷御用捨米

是ハ、本多伊予守旧領江州甲賀郡村々之内、寺社寄附米定渡之

由村々寺院願出候ニ付、吟味仕相伺依御下知相渡、寺院米請取手

形有之

米拾九石貳斗壺升六合四勺

運賃米

是ハ、内三石七斗七升五合貳勺ハ、甲賀郡納米千四拾八石六斗

七升壺合三勺二條御藏納仕候ニ付、矢橋赤野井浦方大津迄積届

候運賃米、但納米壹石ニ付三合六分宛、拾五石四斗四升壹合貳分
 八、同国高嶋郡納米千貳百八拾六石七斗六升八合五分、二条御藏
 納仕候ニ付船木浜・永田浜・馬原浜・大津迄積届候運賃米、但納
 米壹石ニ付米壹升貳合宛前々引付を以相渡如此

米六拾貳石五升六分

車力賃米

是ハ、江州甲賀郡・高嶋郡御物成米之内、貳千三百三拾五石四
 斗〇升九合六分、二条御藏納仕候ニ付大津・二条御藏場迄道法

(虫垣)

三里積届候、此車數六百六拾七輛貳分六厘九毛、但三石五斗積壹
 輛ニ付米九升三合宛前々引付を以相渡如此

米拾五石四斗壹升三合

石原半右衛門 江渡

是ハ、近江国御普請人足并奉行扶持之積リ残置候得共、右扶持
 米員數難相極、此節御勘定仕上ケ候差支ニ罷成候ニ付相伺、依御
 下知石原半右衛門 江引渡申候

米貳百貳拾三石六斗五升

新規 置籾米

此籾四百四拾七石三斗

是ハ、戊年々被仰付候新規置籾之通可差置旨被仰渡、村々ニ差置
 候分石原半右衛門 江引渡如斯

右諸渡方之儀御勘定払ニ可相立旨、寛播磨守・松波筑後守・杉
 岡佐渡守・細田丹波守・松平隼人正・神谷武右衛門・井沢弥惣
 兵衛・板花友之進・八木清五郎・古郡孫大夫・深沢藤九郎・中
 嶋与十郎・斎藤又五郎証文有之

米貳千七百貳拾石七斗貳升貳合

内

貳千三百三拾五石四斗三升九合六分 二条御藏納
 合 三百八拾五石貳斗八升貳合四分 諸渡米

銀六貫百貳拾壹匁六分三厘

江戸御金藏納

右者、亡父治左衛門元御預リ所、近江国去子年御物成米・銀納方・
 渡方仕切御勘定仕上ケ申候、以上

享保十八年 丑 四月

多羅尾 求 馬印

御勘定所

如前書銀米納札并払方手形を以、子年仕切御勘定仕上有之付、為
 後日覚令判形遣之候、以上

丑 五月

御用ニ付五幾内江罷越無印形

深 沢 藤 九 郎 印	齋 藤 又 五 郎 印	菊 地 文 五 郎 印	堀 江 荒 四 郎	瀧 川 小 右 衛 門 印	中 嶋 与 十 郎 印	青 木 次 郎 九 郎 印	古 郡 孫 太 夫 印	祖 父 江 作 左 衛 門 印	八 木 清 五 郎 印	八 木 半 三 郎 印	小 林 孫 四 郎 印
-------------	-------------	-------------	-----------	---------------	-------------	---------------	-------------	-----------------	-------------	-------------	-------------

御普請御用ニ付無印形

板花友之進^印

井沢弥惣兵衛

神谷武右衛門^印

松平隼人正^印

細田丹波守^印

杉岡佐渡守^印

松波筑後守^印

寛播磨守^印

多羅尾 求

馬殿

(筆写 陣内智江)

〔四〕元文元年十一月 元御預所享保二十卯年御金蔵^方請取候金

御勘定目録 (豎帳)

(表紙)

元御預所

享保二十

卯年御金蔵^方請取候金御勘定目録

多羅尾 四郎右衛門

享保二十

卯年御金蔵^方請取候金御勘定目録

一金千三百六兩三分永百拾七文五分式厘 江戸御金蔵^方請取

内 三百拾四兩貳分永五拾七文七分七厘 古金

九百九拾貳兩壹分永五拾九文七分五厘 文字金

右渡方

金百五拾四兩貳分永五拾七文七分七厘 運賃金

是者、勢州去卯御物成米貳千九百六拾八石八斗貳升貳合江戸廻
ニ付、運賃直段米百石付金五兩永百三拾文宛之積、且又太餅糶五
拾五石相廻候付、是ハ米運賃貳割半安之積、糶百石付金四兩永

百四文宛之直段を以請取相渡如此

金百六拾六兩三分永式拾八文七厘 堤切所御普請御入用

是者、勢州高宮村当辰春御普請御入用金請取相渡如此

金八百九拾兩壹分永式百六文壹分三厘 堤川除切所破損・溜池
浚御普請御入用

是者、勢州村々当辰春御普請被仰付、右御入用金請取相渡如此

金六拾八兩壹分永百七拾五文壹分九厘 以樋伏替御入用

是者、勢州村々当辰春御普請御入用金請取相渡如此

金式拾六兩式分永百五拾文三分六厘 川除梓建替御入用

是者、勢州村々当辰春御普請御入用金請取相渡如此

合金千三百六兩三分永百拾七文五分式厘

右渡方金御金藏方請取可相渡旨、松波筑後守・杉岡佐渡守・細田
丹波守・神谷志摩守・石野筑前守・河野勘右衛門・神尾五郎三郎・
井沢弥惣兵衛・八木清五郎・堀江荒四郎証文有之

右者、私元御預所勢州去卯年御金藏方請取候金、渡方手形を以御
勘定仕上申候、以上

元文元年 辰十一月

多羅尾 四郎右衛門 印

御勘定所

如前書享保二十卯年御金藏方請取候金、私方手形を以同年御勘定
仕上有之付、為後日覚令判形遣之候、以上

辰十二月

京銀吹替御用ニ付無印形
在方御普請御用ニ付無印形

斎藤又五郎 印
正木与市郎 印
都築源大夫 印
菊池文五郎 印
堀江荒四郎
瀧川小右衛門 印
中嶋与十郎 印
青木次郎九郎 印
古郡孫大夫 印
八木清五郎 印
祖父江作左衛門 印
八木半三郎
井沢弥惣兵衛
神尾五郎三郎 印
石野筑前守 印
河野豊前守 印
神谷志摩守 印
細田丹波守 印
杉岡佐渡守 印

多羅尾 四郎右衛門 殿

(筆写 浅井隆市)

〔五〕寛延二年二月 延享四卯年御金藏₅請取候金銀御勘定目録

(縦帳)

(表紙)

延享四

卯年御金藏₅請取候金銀御勘定目録

多羅尾 四郎右衛門

延享四卯年御金藏₅請取候金銀御勘定目録

一金四百九拾三兩壹分永式百式拾九文式分九厘江戸御金藏₅請取
 一銀四百九拾四匁七分六厘 江戸御金藏₅請取

右渡方

金三百三拾八兩壹分永式百拾九文七厘 運賃金

御膳₅百七拾七石五斗此御廻米₅高丑御貯₅米₅拾石太餅₅三拾石

米四千三百拾五石四斗四升七合

此訖

米三千六百式拾式石八斗六合 勢州桑名湊積之分

此運賃金式百六拾八兩三分永六拾式文式分

但 米百石ニ付
金七兩壹分永百七拾文宛御膳₅百七拾七石五斗

同湊積之分

此運賃金拾六兩壹分永式百式拾式文式分

但 米百石ニ付
金五兩三分永百八拾六文宛丑御貯₅米₅拾石

同湊積之分

此運賃金壹兩永百八拾七文式分

但 右同直段

太餅₅三拾石

同湊積之分

此運賃金壹兩三分永三拾文八分

但 右同直段

米六百九拾式石六斗四升壹合

勢州若松浦積之分

此運賃金五拾兩永式百拾六文四分七厘

但 米百石ニ付
金七兩壹分宛

金三分永式百式拾文四分

五里外小廻運賃金

此訖

米四拾四石壹斗九合

勢州有滝浜₅若松浦迄

此小廻運賃金三分永式百式拾文四分

但 米壹石ニ付
永式拾式文宛是者、勢州度会郡植山新開御物成米、同国有滝浜₅若松浦迄小

廻し海上拾三里之内、五里者百姓役錢、八里之分相渡如斯

金式兩式分永式百八文三分三厘 五里外駄賃

此錢拾三貫文

但 金壹兩ニ付
四貫八百文替

是者、近江国甲賀郡式ヶ村大津御藏納米百三拾石式升、右式ヶ

村₅矢橋赤野井浦迄道法八里之内五里八百百姓役錢、三里之分此

延道三百九拾里、但壹里米壹石ニ付鑓三拾式文宛前々引付を以

相渡如斯

金百三拾壹兩永百九拾文四分壹厘 御茶料 諸色御入用

此訳

金八拾八兩永貳百貳拾壹文三分三厘 御茶料

此御煎茶拾四貫目 但 壹貫目ニ付金六兩壹分永五拾壹文五分貳厘三毛
紀州殿役人別紙小帳有之

金四拾壹兩貳分永九拾八文八分三厘 御茶諸色御入用

但 兩替六拾目
紀州殿役人別紙小帳有之

金壹兩壹分永百貳拾文貳分五厘 御茶御用ニ付松坂江
罷越候諸色御入用

内

永百六拾七文四分五厘

手代貳人 木錢
小者貳人

此鑊八百五拾貳文

但 金壹兩ニ付
鑊五貫百文替

是者、内鑊五百七拾四文者手代貳人、寅六月十二日江州信樂役
所出立勢州松坂江罷越、同十七日役所江罷歸候日數六日五泊六
昼分木錢、但手代壹人ニ付、一泊り三拾五文一昼拾七文宛、鑊貳
百七拾四文者小者貳人日數右同斷、但小者壹人ニ付一泊り拾七
文一昼八文宛之積リ

金貳分永百拾九文四文七厘

人足四人賃錢

此鑊三貫百五拾七文

但右同斷

是者、右御用ニ付松坂江罷越候節御用長持人足四人、江州信樂
方勢州松坂迄道法拾七里往返三拾四里、此延道百三拾六里、但壹
里壹人ニ付鑊貳拾貳文三分宛

金貳分永八拾三文三分三厘

本馬貳疋駄賃

此鑊貳貫九百七拾貳文

但右同斷

是者、右御用ニ付手代貳人本馬貳疋、信樂方松坂迄道法拾七里往

返三拾四里、此延道六拾八里、但壹里壹疋ニ付鑊四拾貳文宛

金九兩三分

以御普請御入用

是者、濃州不破郡綾野村惡水吐以御普請御手当御入用金請取之
相渡如斯

金三兩永三拾九文四分

土橋掛替御入用

是者、濃州不破郡今須宿中山道往還土橋五ヶ所御普請御入用金
請取之相渡如斯

金七兩壹分永百壹文六分八厘

板橋掛替御入用

是者、濃州不破郡久德村美濃路往還板橋壹ヶ所御普請御入用金
請取之相渡如斯

銀百五拾六匁壹分三厘

板橋掛替御入用

是者、勢州度会郡小林村山田奉行宇治山田江之往還板橋壹ヶ所
御普請御入用銀請取之相渡如斯

銀三百三拾八匁六分三厘

以御普請御入用

是者、勢州河曲郡北長太村湖留惡水吐以四ヶ所・走リ壹ヶ所御
普請御入用銀請取之相渡如斯

合 金四百九拾三兩壹分永貳百貳拾九文貳分九厘

銀四百九拾四匁七分六厘

右渡方金銀御金藏方請取可相渡旨、神谷志摩守・神尾若狹守・逸
見出羽守・松浦河内守・曲淵豐後守・兒嶋孫七郎・堀江荒四郎・
井沢弥惣兵衛・早川庄次郎・兒玉喜兵衛・上野助三郎・犬塚權之
助・山崎岡右衛門・室田金左衛門・浅井半左衛門・吉岡四郎右衛
門証文有之

右者、私御代官所去々卯年御金藏⁵請取候金銀、渡方手形を以御勘定仕上申候、以上

寛延二年巳二月

多羅尾 四郎右衛門^印

御勘定所

如前書御金藏⁵請取候金銀、弘方手形を以卯年御勘定仕上有之付、為後日覚令判形遣之候、以上

巳四月

吉岡 四郎右衛門^印

煩 佐久間 郷右衛門^印

浅井 半左衛門

室田 金左衛門^印

山崎 岡右衛門^印

犬塚 権之助^印

小木 藤助^印

児玉 喜兵衛^印

早川 庄次郎^印

長崎御用ニ付無印形

中山 平左衛門

上野 助三郎^印

正木 与市郎^印

井沢 弥惣兵衛^印

児嶋 孫七郎^印

遠藤 六郎右衛門^印

曲淵 豊後守^印

加役在勤ニ付無印形 松浦河内守

煩 神尾若狭守^印
神谷志摩守

多羅尾 四郎右衛門殿

(筆写 齋藤勝英)

以下次号へ続く

(國學院大學文学部教授 大谷貞夫)

(國學院大學史学科文書整理員 千田豊子)